



(禁転載)

WAVE

大阪成蹊学園報

第22号

2012年11月28日発行

発行 学校法人 大阪成蹊学園
法人事務本部 広報部

〒533-0007 大阪府東淀川区相川13丁目10番62号

TEL. 06-6829-2535

http://www.osaka-seikei.ac.jp/

大阪成蹊大学教育学部(仮称)新設

(平成26年4月予定、設置認可申請準備中)

①北大阪地区で本格的な教育学部(児童教育学科)の誕生

本学園の児童教育関係の在籍学生・生徒は、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学を合わせて931人に達しています。

大阪市の小学校教員採用試験で合格者88名(短期大学の最近6年間)、大阪市の小学校講師数99人、幼児教育学専攻の就職率100%(就職希望者対比)、地元幼稚園の73%に卒業生が先生として在籍するなど、北大阪地区において、「児童教育の成蹊」という評価は定着しています。このような児童教育の強み、特色を生かして教育学部を新設

教育学部の教育理念及び目的

教育学部は未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むために、深い人間的なふれあいと成長過程での発達特性の理解に基づいて、専門的に学ぶことを目的とする。つまり、幼児・児童が自立して社会の中で豊かな人生を送るために、その成長を長期的な視点で捉え、知性・感性・特性をともに培う確かな人間教育を通して、活躍できる人材の育成を目指す。

します。

②2つのコースで小学校・幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格を取得

2年生から、小学校、幼稚園教員をめざす「初等教育コース」と幼稚園教員、保育士をめざす「幼児教育コース」のいずれかを選択して専門性を身につけ、教員採用試験での高い合格率をめざします。

③1年生から4年生まで担任制の導入

学生は担任の教員と気軽に相談でき、担任は、学生の日常の些細な変化も見逃さず卒業まで導きます。

④豊富な学外実習と特性科目が

特色

1年生から学外の実習を取り入れて、最終的に教育実習へと結び付けます。学校のみならず企業へのインターンシップやボランティア活動など、学生は積極的に社会活動に取り組みます。また、教育現場に入るとき、自信をもって子どもと接することができるよう音楽、体育、図画工作といった科目を重点的に指導する特性科目を設置し、個性豊かな教員を育てます。

⑤大阪教育大学、京都教育大学などにおいて指導経験豊富な、熱意のある教員の指導のもと小学校教員採用試験の合格をめざす



武蔵野實教授

大阪成蹊大学 学長予定者
・理学博士(京都大学)
・京都教育大学教育学部教授
・京都教育大学副学長
・現 大阪成蹊短期大学学長



三村寛一教授

大阪成蹊大学 学部長予定者
・学術博士(大阪市立大学)
・大阪教育大学教育学部教授
・現 大阪成蹊大学副学長

スポーツ&カルチャーセンターの副センター長で、本学陸上競技部の監督でもある、大阪成蹊大学マネジメント学部スポーツビジネスコースの瀧谷賢司准教授が、このたび日本陸上競技連盟強化委員会女子短距離部長に就任され、2016年に開催されるリオデジャネイロオリンピックに向けて日本女子短距離チームを指導する事になりました。そこで今回の就任について瀧谷准教授にお話を伺いました。

大阪成蹊大学マネジメント学部
瀧谷賢司准教授
日本陸上競技連盟強化委員会
女子短距離部長に就任



「たくましい心」育てたい

私の役割はリオデジャネイロオリンピックに出場する選手やコーチを指導・統括することです。ここ数年、日本女子短距離は注目されていますが、ロンドンオリンピックでは思うような結果を残すことができませんでした。この流れを変え、選手・コーチの意識改革を促すために私は招集されたと考えています。日本人選手の能力は高く、決勝に進出する力は十分にあると思っていますので(特に4×100mと4×400m)、技術的な指導はもちろんですが、まずはどんな状況にも折れることのない「たくましい心」の育成に力を注ぎたいです。

今回のお話を受けるにあたり、ずいぶん迷いました。私はこの春にスポーツビジネスコースの准教授に就任したばかりで、指導をしている陸上競技部の学生たちもどんと実力を伸ばしています。このような状況で日本陸上競技連盟女子短距離部長の仕事をお受けすれば、学生たちに迷惑がかかると思ったからです。しかし今回のように世界を舞台にした仕事を経験することで、同じように世界を目指して練習している学生たちにも何か還元できるのではないかと考え、お受けすることにしました。またこれまで日本陸上競技連盟の指導者は、ほとんどがオリンピック選手や日本記録保持者でした。しかし現場の指導者として長年陸上競技にかかわってきた私が今回選ばれたことは、他の指導者の方たちにも夢を与えられることだと思っています。

新しい時代を切り開こう



比良山系の豊かな自然とともに歩んできたびわこ成蹊スポーツ大学が2003年の開学から10年を迎え、秋晴れの9月22日に大学大ホールで記念式典が行われました。滋賀県の嘉田由紀子知事をはじめ、びわこ成蹊スポーツ大学の諮問委員や滋賀県体協、大津市のスポーツ関係者ら多数の来賓が臨席されました。学園の石井茂理理事長、嘉田知事らのお祝いの言葉があり、飯田稔学長が10年の歩みを振り返りながら式辞を述べました一写真。

飯田学長は、式辞の中で「2003年に誕生した本学は、スポーツに関する学術の中心として深い理論と実践を備えた高度職業人を育成し、21世紀のスポーツ文化を創造するとともに、国及び地域の発展に寄与する目的でびわこ成蹊スポーツ大学が創立されました。開学初年度から高い

志願倍率を誇り、2007年からは社会的・学内の要請に応えた定員増や講義棟など施設の充実、新規教職員の採用などで着実に前進してきました」と初代学長の森昭三先生が築かれた基礎から進歩した大学の歩みを振り返りました。

さらに、すべての大学が7年に一度受ける大学機関別認証評価(本学は、財団法人日本高等教育評価機構で受審)が定める大学評価基準を満たしているとの認定を受けたことや、2011年から始まったAction Plan 2015に沿って①見える教育②活きる研究③役立つ社会貢献④確かな管理運営の目標を掲げて具体的な改善策に取り組んでいることを紹介し、「10年の基礎の上に教育の質の向上を重視し学生一人ひとりと向かい合い、小規模大学の良さを生かした教育をめざします」と新たな歩みに向けた抱負を語りました。

この日の式典で会場となった大ホールと第1、第2ホール、そして、隣接した講義棟の大講義室および中講義室を映像と音声で結ぶサテライトシステムが初めて導入され、参加した学生らは同時進行で流れる式典の模様に見張っていました。

びわこ成蹊スポーツ大学 創立10周年

チアリーダーが10周年を祝うメッセージを描いた



「カイガク10th」。カラフルな絵文字でチアリーダー(真面目自由学園)がアクロバティックに華やかなお祝いメッセージを描く——9月22日の10周年記念式典に続いて、比良川を挟んだびわこ成蹊スポーツ大学北側に完成した新しいスポーツゾーン「比良エリア」でテニスコートや10周年記念モニュメントのお披露目が行われました。

モニュメントお披露目

比良エリアのほぼ中央に位置する人工芝の「つどいの広場」の一角に設置された記念モニュメントのネーミングは「巨大な光に向かって」。10周年を経て新しい歩み始める「びわスポ」の将来を象徴するようにモニュメントは天空に金色の大きな手を伸ばしている像。作者は大阪成蹊短大、大阪成蹊大学の学長を歴任された彫刻家の宮瀬富之先生。若人の躍動を表現したという宮瀬先生ならではの作品で、モニュメントの題字はびわこ成蹊スポーツ大学の飯田学長の手によるものです。

モニュメントの除幕式に続いて大学の新しいスポーツ施設として今夏に完成した「テニスの森」、「野性の森」のお披露目も行われました。なかでも、出席者の皆さんが口をそろえて称賛されたのは表面がブルーで統一された「テニスコート」。世界4大テニス選手大会のひとつ、全豪オープンと同じハードコートの仕様で本学競技スポーツ学科の植田実教授(テニス部監督)がナイター照明付きの5面半のコートを説明しました。

「テニスの森」の東側にある「野性の森」は、新入生のフレッシュマンキャンパスで取り組んでいるASE活動(社会性を育成する実践体験)など野外教育の拠点になる設備がそろっています。昨秋にできたベースボールフィールドと合わせて、比良エリアのスポーツ施設は、びわこ成蹊スポーツ大学の地域に開かれた自然豊かなキャンパスとして親しまれそうです。



お披露目された記念モニュメント

Topics

大阪成蹊短期大学

武蔵野学長 済州観光大學訪問



大阪成蹊短期大学と韓国の済州観光大學とは平成12年に交流協定を締結していますが、近年は毎年のように済州観光大學の学生が1~2名本学に短期留学生として来訪し、一方で本学短大生が1カ月間の韓国語の短期語学研修生として済州観光大學で学習するようになり交流が盛んになってきています。

このような学生の教育上の交流が発展する中で、先日、本学の武蔵野学長が済州観光大學を訪問し、現地で講演するなど学術的交流を行いました。

9月14日(金)武蔵野学長は観光日本語学科長の河京勳(ハ・キョンフン)先生の案内で、済州観光大學へ赴き、金性圭(キム・ソンギョ)総長、韓承一(ハン・スンイル)副学長らの出迎えを受け、留学中の本学学生、本学へ留

学した済州観光大學の学生、本学へ留学予定の学生とともに懇談しました。

午後、武蔵野学長は40名ほどの学生を前に「日本と韓国ジオパークの絆」と題して、韓国で唯一Global Geoparks Networkに加盟している済州島と国内で活動が盛んになってきている日本ジオパークネットワークの現状に触れながら、日本海の生成に関わる話題、ジオパーク(大地の公園)の意義などについて講演しました。

15日(土)には済州島で世界遺産に登録されている拒文岳(コムンオルム)トレッキングコース、タフコーン(火山地形の一種)の城山日出峰(ソンスンイルチュルボン)、溶岩トンネルの万丈窟(マンジャングル)を河京勳先生の案内で見学しました。

済州島は韓半島につながった大陸地殻の上にありながら、ハワイの火山と類似した玄武岩の活動によってできた島で、特異な地形や地質からなり豊かな自然に満ちていることに特徴があります。折しも済州島では世界自然保護会議(WC)が開催され、自然の保護と持続可能な社会について議論が行われていました。



武蔵野学長

フードフェスタにぎわう 料理展示やコンテストも



デザートパフェコンテスト

7月15日(日)オープンキャンパスにおいて、「フードフェスタ」を開催し、食物コース調理クラス・フードコーディネートクラス・栄養コース・マネジメント学部の食ビジネスコースが集結して、食に関するさまざまなイベントを行いました。

当日は、各コース説明のほか、料理〇×クイズ、卒業作品展の再現料理展示・テールコーディネート展示、2回生によるキャラクター弁当コンテスト・デザートパフェコンテスト、パネル展示などを行いました。

なかでも、2回生による各コンテストでは、日ごろの成果を来場者に見ていただき、人気投票後の表彰式では会場

中が温かい拍手に包まれました。ランチタイムには、在学生が提供する模擬店コーナーで和牛のボロネーゼパスタやチャイナサンド、フライドピンチョスの盛り合わせ、さらにミニパフェやフレッシュジュースが高校生や保護者ら100名を超す来場者にふるまわれました。

参加者のアンケートでは、「在学生がとても楽しそうで、大阪成蹊に行きたい気持ちがさらに強くなった」「今まで行った学校の中で、一番雰囲気良かった」など、ありがたい感想をたくさんいただき、参加者に向けた本学志願へのきっかけ作りとして、イベントを大盛況に終えることができました。



キャラ弁コンテスト



人気投票1位作品

大阪成蹊女子高等学校

校舎に掲げたテーマ



舞台のパフォーマンス

圧巻のダンスパフォーマンス



教室をおとぎの国に

2日間の文化祭に2400人来場 ♡今年のテーマは「SEIKI Girl's Collection」

9月15日(土)、16日(日)の両日に文化祭を行いました。今年もたくさんの来場者の方に来ていただき、盛り上がりを見せました。

今年のテーマは「SEIKI Girls' Collection」ということで、多種多様なクラス企画が催されました。今年から新しい部門として、「アトラクション部門」が創設され、来場された方々に今まで以上に楽しんでもらおうという趣旨の下、模擬店やビデオ放映、さらにはプラネタリウムやおとぎの国を教室内の装飾だけで表現していくという今までにない形のクラス企画が生まれました。

また、パフォーマンス部門ではダンスパフォーマンスをはじめ今流行の「集団行動」まで飛び出し、大いに盛り上がりを見せました。

舞台部門では、演劇とダンスのクラス企画があり、こちらも今までにない演技を見せてくれて素晴らしいパフォーマンスでした。

各クラスとも、夏休み前の企画を考えるとところから始まり、担任の先生や文化委員には大変骨の折れる作業だったかもしれませんが、成蹊伝統の「行事は全力で」という暗黙の了解で全教員、全生徒協力し合いながら何とか当日を迎え、各クラスとも満足のいく充実した文化祭ではなかったかと思えます。

P.T.A企画では、保護者の方々よりバザー出品の協力をいただき、売れ行きも好調だったようです。ご協力いただきました保護者の皆様にはこの場を借りまして感謝申し上げます。

また文化振興委員会を中心にした作品

展示でも多くの作品が展示され、こちらも保護者の方々との多大なご協力によりボリュームのある展示になり、感謝申し上げます。



P.T.Aによる展示作品

この2日間で来場者数は2400人程度となり、今年も混雑した中ではありましたが、大きな事故もなく文化祭を終了することができました。これは各教職員、保護者の方々のご協力の賜物であると思っています。今後も、成蹊の行事はいつでも教員、生徒ともに全力で行ってきたいと思っています。

☆各部門の優秀クラス☆

アトラクション部門

金賞 3年8組
銀賞 3年1組
銅賞 1年4組、1年12組

パフォーマンス部門

金賞 3年4組
銀賞 3年5組、1年8組
銅賞 2年10組

舞台(ダンス)部門

金賞 3年9組
銀賞 3年7組

舞台(演劇)部門

金賞 2年3組

Topics

大阪成蹊大学 マネジメント学部

スポーツ教育について意見が
交わされた11月31日

スポーツシンポ2回開催

大阪成蹊大学マネジメント学部スポーツビジネスコース主催で8月31日と10月17日に、2つのスポーツシンポジウムが開かれました。

なでしこ強さの秘密

・・・8月31日

8月31日のスポーツシンポジウム1は「日本の教育はどうあるべきか? 〜グローバルなスポーツの視点から〜」をテーマに、本学プラムホールにて行われ、360名を超える聴衆で会場は熱気に包まれました。

パネリストに原博美氏＝日本サッカー協会技術委員会委員長、ミゲル・ロドリゴ氏＝フットサル日本代表監督、望月聡氏＝サッカー女子日本代表ヘッドコーチ／びわこ成蹊スポーツ大学准教授を迎え、本学マネジメント学部上田滋夢教授がコーディネーターを務めました。

今夏のロンドン五輪・女子サッカーで銀メダルの望月准教授への祝辞、本年11月に行われるFIFAフットサル・ワールドカップのアジア

代表権を獲得したミゲル・ロドリゴ氏への祝辞と本大会での健闘祈願でシンポジウムは始まりました。

「第1部 グローバルな観点からの教育」では、望月准教授により、なでしこJAPAN全体の「明るさ」と「ポジティブさ」を向上させつつ、チーム内の「競争状態を常に維持」させることに苦心したことが語られた。ミゲル氏は「日本はスペインではない。日本には日本の文化があり、他国のやり方をコピーするのではなく、その特性を活かした方法を確立すべき」と熱弁されました。

「第2部 教育の達成目標（勝利と内容・結果と発展）」では、原氏より「なぜ、香川真司選手は五輪代表に選ばれなかったのか」など、報道には出てこない裏話。原、ミゲル両氏から「五輪は通過点。最終目標のために目の前の結果を捨てる」「データはデータ。人の能力評価は数値化できない。長期的視野で成長を評価し、Vision（世界）を明確にする」と提言がなされました。

「第3部 大学教育への提言、指

導者への提言」では、「足が速い」とか「身体が強い」という形態的な特徴を形式的に評価せず、状況認識・判断・決断・実行に優れた人間を育てる。指導者も「自分たちの状況を認識する環境」気づきの感性を育む環境が必要、との提言をまとめられました。テーマから自由に逸脱しながら、最終的には提言が同様になるという調和に観客席からの拍手はやまず、時節柄、インパクトの強い画期的なシンポジウムとなりました。

親子一緒に楽しもう

・・・10月17日



教育研究者・杉山美沙子氏の講演風景 10月17日

10月17日のシンポジウム2は、「スポーツと人間力 〜文武両道の教育〜」をテーマに、本学プラムホールにて250名の参加者のもと開催されました。

第1部の基調講演では「文武両道の人間を育てる秘訣」をテーマに、テニスの杉山愛選手の実母で教育研

究家の杉山美沙子氏より、「スポーツだけでなく、学力や人間力のある子育てをするにはどうすればよいのか、自らの経験と石川遼、宮里藍、錦織圭の3選手のご両親のインタビューを通して見つけた「10の法則」をご講演いただきました。

親は子どもと同じ目線でスポーツを楽しむこと。勝ち負けよりもまずスポーツが好きになること。親子が一緒になって努力し、工夫すること。試合で負けたときこそ、優しく迎えてあげることなど、貴重なお話を伺いました。

第2部のパネルディスカッションでは「スポーツによる教育と人間力の育成」をテーマに、パネリストに、学校の現場から新庄小学校校長の友岡好枝氏、スポーツクラブの現場から瑞光テニスクラブ代表の安積直孝氏、塾の現場から（株）パーソナルサポート代表取締役の吉村昭彦氏、研究の現場から本学副学長・教授の三村寛一氏を迎え、本学マネジメント学部の植田真司教授がコーディネーターを務め、ディスカッションが行われました。

友岡氏から、「小学生が休憩時間などに運動することで、落ち着いて授業を受けるようになった」、安積氏から「テニスを通じて集中力やマナーを学ぶことができる」、吉村氏から「スポーツを通じて、先生と生徒のコミュニケーションを図ることができ」、三村氏から「調査研究から運動と学力には明らかに相関関係がある」など、学力や人間力向上にスポーツがいかに重要な役割を担っているか、各現場の事例を紹介いただきました。

大阪成蹊女子高等学校

オープンスクール 開催!



昨年の8月のオープンスクール。参加者数637名、会場に入りきれずに大慌て…。とりあえずは無事に終了したものの、大きな問題が残ってありました。



10月はハロウィン企画でお出迎え

毎年たくさんの方が参加される12月の入試問題解説の会場をどうしたらよいか…。広報室で議論の末、出した答えが「第2体育館を説明会場にする」というもの。大きなスクリーン3枚と強力なプロジェクター1台を新たに導入し、なんと広い会場でもストレスなく聞いていただくことができました。

そして、今年の夏。前年度の経験から8月のオープンスクールを第2体育館で実施。夏真っ盛りですから暑さ対策でうちわの配布、そしてスポットクーラー6台を稼働させて対応したものの、やはり体育館は広かた。それでも、参加者の皆様はうちわ片手に真剣なまなざしで聞いてくださいました。勝手な想像ですが、暑い中で駅前や校門に立って、元々よくあいさつをしている成蹊生に比べればと…あくまで勝手な想像ですが。

「成蹊のオープンスクールに行った生徒がとても学校を気に入って帰ってくる」と中学校や塾の先生からよくお話をいただきます。「どんなことをやっているのですか?」とも。「実は秘技がありまして

オープンスクール全体説明会の様子



…」というようなものではなく、いたって普通のオープンスクール。ただ、中学生や保護者の方がよくおっしゃるのは、「どの先輩もあいさつをしてくれた」「とても優しく教えてくれた」ということ。

大阪成蹊女子高等学校のオープンスクールは、そんな生徒に支えられています。当たり前のことなのかもしれませんが、オープンスクールに来て出会う在校生の姿が、そのまま学校の印象となる。今、こうしてたくさんの方に来ていただいているのは、きっと成蹊生のかもし出す雰囲気の良いさにあるのでしょう。まさしく「桃李不言 下自成蹊」を実践してくれている生徒に感謝します。

大阪成蹊女子高等学校
募集広報企画室 仲間 志訓

こみち幼稚園

毎年5月のPTA総会において、保護者の皆さんに必ずお話しすることがあります。それは、「子どもにもそして保護者の皆さんにも「こみち幼稚園大好き!!」と書いていただける幼稚園を目指しています」ということです。ある幼児向けのテレビ番組で、MCの方が、わざわざ子どもが見てもわからない外国のタレントのモノマネをしていたそうです。その理由は、「お母さんがそのモノマネを見て笑うと子どもも自然と笑っている。お母さんが笑顔になると、子どもも幸せなんだよ」とのことでした。

その話を聞いて、かつて私が受けた持った女の子のことを思い出しました。6年生の時に、重い病を患い、ずっと入院したまま中学生になりました。

した。夏に当時の同僚とお見舞いに行ったところ、薬の副作用で髪は抜け落ち元気な頃の彼女を知っている身としては、随分ショックを受けました。しかし、私が話を始めると、お母さんが涙を流しながらお腹を抱

保護者の笑顔

えて笑っている姿を見て、彼女がうれしそうに笑い「お母さん久しぶりに笑ったね」と言ったのです。帰る時には、何度も引き止めようとしているのが感じられました。

結局その姿が最期となったのですが、それから、「子どもの笑顔は保護者の笑顔から、保護者の笑顔は子どもの笑顔から」生み出されるとい

うことが教訓となりました。

園長から、「我々の教育には、愛、があるのか?」と言われます。優しければいいのではなく、その子どものためを思っている時には、厳しくするときも必要なのです。それは、保護者に対

子どもの幸せ

しても同じだと思っています。入園説明会では、「本園の教員は、子どもたちのことを第一に考える愛にあふれた最高の先生たちです」と話しました。

「幼稚園への愛、子どもへの愛、保護者への愛、」があふれ笑顔の絶えない幼稚園を作りたいと平成25年度の募集を終え、さら

に未来へ向けて決意を新たにしています。

こみち幼稚園 教頭 井上扶美



Topics

大阪成蹊大学芸術学部

第2回 大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション2012

第2回大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション2012の審査結果が決定しました。昨年に引き続いて「未来への発信」をテーマに、中学生作品155点（応募校数21校）、高校生作品703点（応募校数53校）という昨年に大きく上回る数多くの力作の応募がありました。10月21日（日）に開催されたその審査結果をお伝えします。

まず、中学生の部では、百合学院中学校の2人の生徒さんの作品が、最高賞であるグラ

ンプリ（大山莉奈さん）と次席である審査員特別賞（高寺真未さん）に選ばれました。また中学生の部の各部門賞はA部門（イラストレーション）に大阪市立咲くやこの花中学校の波多野栞さん、B部門（キャラクター・漫画）に大阪市立昭和高等学校の野一色優美さん、C部門（美術作品）に大阪市立咲くやこの花中学校の下野安由美さんがそれぞれ選ばれました。さらに佳作の20点、入選の31点も決定しました。

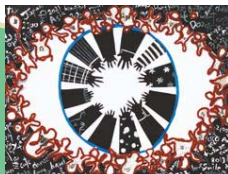


大山莉奈さんの
「りんごオレンジの泡」

中学生の部



波多野栞さんの
「折紙」



高寺真未さんの
「未来の目」



下野安由美さんの
「未来へ飛び」

高校生の部では、数多くの応募者の中から困難を極めた選考の結果、グランプリに三重県立津東高等学校の田中義樹さんの段ボールを使った迫力のある胸像作品が選ばれました。さらに数度の検討の結果、審査員特別賞に京都共栄学園高等学校の藤本友さんによる昆虫の世界を甘美な色彩で描いたファンタジックな作品が選ばれました。また各部門賞としてA部門（ビジュアルデザイン）には京都市立銅駝美術工芸高等学校の樽谷美玖さんの群衆の中の孤独を描いたイラストレーション、B部門（写真）には大阪府立城東高等学校の山下勇平さんの学校の廊下の甘い1コマを捉えた3点組、C部門（ファッション・インテリア・プロダクトデザイン）には大阪市立立芸高等学校の大野美波さんのマルクトのついた木箱作品、D部門（美術・工芸）には大阪府立港南高等学校の森田結実さんの花に囲まれた女性の笑顔が印象的な版画作品が、それぞれ選ばれました。さらに佳作27点と入選52点が決定されました。中学生の部および高校生の部それぞれに応募作品の指導と出品にご尽力いただいた学校に対して、「学校賞」が選ばれました。選考いただいた先生方はじめ多くのお世話いただいた関係各位には厚くお礼を申し上げます。

なお、授賞式は11月17日（土）に行われました。また受賞作品展示は11月17日（土）から12



田中義樹さんの
「ふりかえる」



藤本友さんの
「play of insects」



山下勇平さんの
「僕の目線」



樽谷美玖さんの
「待つ」



大野美波さんの
「欲張り」



森田結実さんの
「美の道」

月1日（土）まで、南館1Fのギャラリー＜space B＞とプレゼンテーションルーム・学生ホールにおいて開催されますので、多数のご来場を心よりお待ちしております。

学生 受賞報告

「デコリメイクチャレンジ展」において、環境デザイン学科テキスタイル・ファッションデザインコースの3年生・江川佳菜さんの、ネクタイを使ったベストがリメイク部門でアパレル工業新聞社賞を受賞しました。



江川佳菜さんと作品



尾高宏起さんと作品

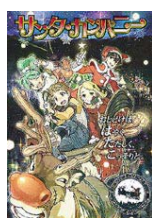


学部美術学科の2年生・尾高宏起さんの日本画作品が奨励賞に選ばれました。受賞作品は、あざみの一種で「アーティチョーク」を描いたもので、初夏の風が吹き渡る野原に誘われるような爽やかな作品です。東京藝術大学や筑波大学など錚々たる精鋭たちに伍して本学の学生作品が受賞したことは大変喜ばしいことであり、早速石井理事長から今年度の学生表彰者として表彰されました。

学生 表彰報告

鳥根県で開催された「若い石見の芸術祭2012」の目玉イベントである「全国美術大学学生日本画展2012」において、

教員 活動報告



糸曾教授原案サンタ・カンパニー
© KENJI STUDIO

アニメーション・キャラクターデザインコースの糸曾賢志教授が原案・監督を担当する新作『サンタ・カンパニー』をご紹介します。11月初旬にはポプラ社から児童小説として出版され、さらに来年にはユニテッド・シネマ系劇場他全国でアニメ公開予定です。小説内のイラストやアニメのキャラクター原案は、夏のオープンキャンパスにゲストで来校されたライト・ノベルなどの表紙やボーカロイドのキャラクターデザインなどで馴染みの人気イラストレーター「左」さんによるものです。

びわこ成蹊スポーツ大学

びわこスポーツフェスティバル 1st北北良、1st草津

びわこスポーツフェスティバルが、11月18日（日）にびわこ成蹊スポーツ大学で開かれ、12月9日（日）に三ツ池運動公園で開かれました。本フェスティバルは、びわこ成蹊スポーツ大学の学生キッズリーダーが中心となり、子どもたちにスポーツを通じて、「からだ」と「こころ」を健康に育み、一人ひとりの子どもたちの未来が輝くことを願い活動しています。

詳細はこちらへ

<http://www.bss.ac.jp/centre/kids/festival.html>



キッズフェスティバルに集まった参加者たち

入賞続々

スポーツ&カルチャーセンター

大阪成蹊女子高等学校・大阪成蹊短期大学・大阪成蹊大学の枠組みを超えてクラブ活動を支援するスポーツ&カルチャーセンターからは、今シーズンも数多くの入賞のニュースが届いています。

陸上部

- ・天皇賜盃 第81回日本学生陸上競技対校選手権大会
100m 木村茜 6位 200m 木村茜 5位
4×100m 河本晴香、木村茜、酒井里枝、手塚麻祐 8位
- ・秩父宮賜盃 第65回西日本学生陸上競技対校選手権大会
100m 木村茜 2位 100mハードル 上田蘭 2位
三段跳び 金沢理恵 7位
- ・第28回日本ジュニア選手権大会
100m 木村茜 1位 200m 木村茜 1位
★木村茜さんは2年連続で女子最優秀選手にも選ばれました。
100mハードル 上田蘭 7位 やり投げ 脇畑優子 5位

フットサル部

- ・大阪府大学フットサルリーグ 首位独走中（11月11日現在）
- ・関西学生フットサルリーグ 2位
- ・KOBE CUP カレッジフットサル
大阪成蹊A 3位／大阪成蹊B 4位
- ・PUMA CUP 全日本フットサル選手権 大阪大会
BEST16進出

コーラス部 ミュージカル

大阪府合唱連盟理事長の清原浩斗先生をはじめ、著名な先生方をお迎えし活動している大阪成蹊学園コーラス部は、大阪成蹊女子高等学校文化祭にてミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」に挑戦しました。台本も生徒自ら作成し、熱のこもった練習を日々行い、当日は歌・芝居・ダンスと活気溢れるステージを披露しました。今後もミュージカル、唱歌、聖歌などに取り組み、更なる成長を目指して練習に励みます。



ミュージカルに出演した
大阪成蹊学園コーラス部

語学研修の実り語る

—大阪成蹊短期大学 交換留学生報告会—

学生ら



大阪成蹊短期大学は済州観光大学（韓国）と国際交流協定を締結しています。

今年1カ月間の語学研修生として、3月に林美穂さん（総合生活学

科栄養コース現2回生）と吉川亜由美さん（観光学科現2回生）、9月に村上陽子さん（経営会計学科現1回生）が済州観光大学で韓国語を学んできました。

教育研究 支援センターの国際交流部門は、10月12日（金）に、語学研修の様子を、短期大学 武蔵野学長、山脇教育研究 副センター長らに報告する 交換留学生 報告会を開催しました。

3人は、パワーポイントを使用して 留学の動機、授業、語学習得、異文化体験、寮生活、現地学生との交流についてまとめましたが、みな韓国語の習得以外にも、多くの外国人の友人を得たことや、異文化の中で生活することで自分に自信が持ったなど、今回の語学研修がとても有意義であったと報告しました。